



## 58年間の歴史に幕 中央保育所閉所式



施設へお別れの歌を送った年長児たち

施設の老朽化などに伴い平成28年度いっぱいまで閉所した中央保育所の閉所式は3月28日、同所で行われました。同所は昭和34年4月に日詰保育所として開所し、昭和51年4月に中央保育所に改称。日詰保育所としては466人、中央保育所としては1598人の修了児を送り出しました。式では年長児26人が中央保育所での思い出や歌を披露。昭和51年から9年間所長を務めた佐々木ミサさんは「施設内にある木の一本一本を見て、当時のことを思い出します。思い出の詰まった保育所が閉所するのは寂しいです」と話しました。

町内では4月から新たに、オガール地区に社会福祉法人共助会が運営するオガール保育園が開園しました。

## 国際交流を深め、志も新たに

中学生国際交流海外派遣事業報告会は3月9日、情報交流館で行われました。2月17日から25日まで、姉妹都市サザン・ダウズ市に派遣された中学2年生10人が全員でプレゼンテーションを披露。その後、一人一人が今回の派遣事業での気づきや成果などを発表しました。紫波一中の滝浦陽多さんは「サザン・ダウズの人々は日常のささいなことにも感謝を示していて、自分も日本に帰って来てから感謝を伝えることを心掛けるようになりました。今回の経験を生かして、今まで避けていたことにも積極的に挑戦したいです」と意欲を高めていました。



好きな漢字についてプレゼンテーションする一幕



異聖歌の詩を朗読するどっこ舎朗読会のメンバーと聞き入る参加者たち

## 異聖歌と新美南吉をしのぶ朗読会

「聖歌の里の小さな朗読会」は3月22日、日詰商店街にある権三ほーるで行われました。権三ほーる(畠山貞子館主)とどっこ舎(内城弘隆主宰)が共催し、町内外から20人が参加。名誉町民の異聖歌が縁で、町と東京都日野市が姉妹都市盟約を締結したことを記念して、異聖歌の後輩である新美南吉の命日に開催されました。平成16年から朗読会を開いてきたどっこ舎朗読会のメンバーなどが、異聖歌の詩や新美南吉の童話などを朗読しました。企画した畠山館主は「新美南吉の詩は人の心にどンドン入っていく力を持っています。これからも命日に朗読会を開催したいです」と継続を誓っていました。

## 鮮やかなひな人形が平井家住宅に 彩り添える 紫波のひなまつり

紫波のひなまつりは3月3日から5日まで、国指定重要文化財「平井家住宅」をメイン会場に日詰商店街で開催されました。今年で10回目を迎えるこの催しには、町内外から約550人が来場。平井家住宅では町内外11の家庭から集まった歴史あるひな人形が飾られたほか、山屋田植踊や二日町鹿踊などの郷土芸能や紫波町観光案内人「しゃ・べーる」による講談などが行われ、来場者を楽しませました。



竹風会・紫水会の皆さんによる箏と尺八の演奏

商店街の各店舗にもひな人形が飾られました



## 被災地に思いを寄せて 追悼夢灯り



一つ一つ思いを込めて火を灯す  
参加者たち

犠牲者や被災地で頑張る方々へ「明日へ」のメッセージ

「2017東日本大震災追悼夢灯り」は3月11日、紫波中央駅前とオガール地区で行われました。町内有志による実行委員会(橋浦栄一実行委員長)が行っているもので今年で5回目。犠牲者や被災地の方々を思いながら、約700個の色とりどりの灯籠に火を灯しました。ボランティアで参加した紫波総合高1年の中澤歩香さんは「このような催しは震災のことを思い出し、日頃の行動を意識するきっかけになります。震災から6年という月日が流れましたが、未だに仮設住宅で暮らしている方々もいるので頑張してほしいという思いを込めました」と語っていました。

## 野村胡堂と金田一京助の関係を知る あらえびす特別講演会



ユーモアあふれるお話に、笑いが起こる場面もありました

あらえびす特別講演会は3月12日、金田一京助の孫で言語学者の金田一秀穂さんを講師に招き、野村胡堂・あらえびす記念館で開催されました。来場した150人を前に「言語学者だった京助ですが、本当は文学者になりたかったのではないかと思います。野村胡堂や石川啄木の影響があったのかもしれませんが」と京助と同郷の友人たちとのつながりについて話したほか、自身の幼少期の思い出などを語りました。日詰地区の小野秀作さんは「自分の好きなことをすることが大切だというアドバイスをいただけたような気がします」と振り返りました。

## 100歳 おめでとう

現在、町内の100歳以上のご長寿は村上さん、荒木田さんを含めて21人です。

村上 マツさん(赤石) 2/15



熊谷町長(右)からお祝いの言葉をかけられた村上さん(中央)と娘の公味子さん(左)

入所する施設で、入所者や職員などから盛大なお祝いを受けた村上さん。奥州市水沢区出身で、約18年前に町に越してきました。周囲の方々に対して「毎日が楽しく、朝起きて『今日はどんな日かな』と考えるとわくわくします。日頃からお世話をいただき感謝、感謝です」と笑顔で感謝を伝えました。長寿の秘訣は「木の枕で寝ること」だそうです。

荒木田 美恵子さん(赤石) 3/15



熊谷町長(左)から花束を受け取った荒木田さん(右)

背筋をぴんと伸ばして町長を出迎えた荒木田さん。毎朝ハウレン草をゆでて家族分盛り付けをすることが日課で、暖かい時期には草取りをしているそうです。「若い頃は勉強よりスポーツが好きでした。今の楽しみは家族みんなで過ごすこと。これからも迷惑をかけないように生きていきたいです」と笑顔でした。